

JICAプロジェクト

塵肺症および石綿（アスベスト）曝露による 呼吸器疾患の早期診断能力の向上プロジェクト 第3回放射線画像診断研修会

- 開催日

平成30年10月25日（木）、26日（金）

平成30年10月21日～10月28日のうち10月25日、26日に
アスベスト疾患研究・研修センターで研修会開催

- 講師

岸本 卓巳（アスベスト疾患研究・研修センター所長）

「石綿ばく露による肺癌について」
「じん肺発生に関わる防塵マスクの重要性」

藤本 伸一（アスベスト疾患研究・研修センター研究部長兼
岡山労災病院腫瘍内科部長）

「胸膜中皮腫とその鑑別診断」

加藤 勝也（川崎医科大学総合放射線医学教授）

「じん肺関連の肺・胸膜病変」

- プロジェクトマネージャー

井内 康輝（NPO法人総合遠隔医療支援機構理事長兼広島大学名誉教授）

- 共催

アスベスト疾患研究・研修センター

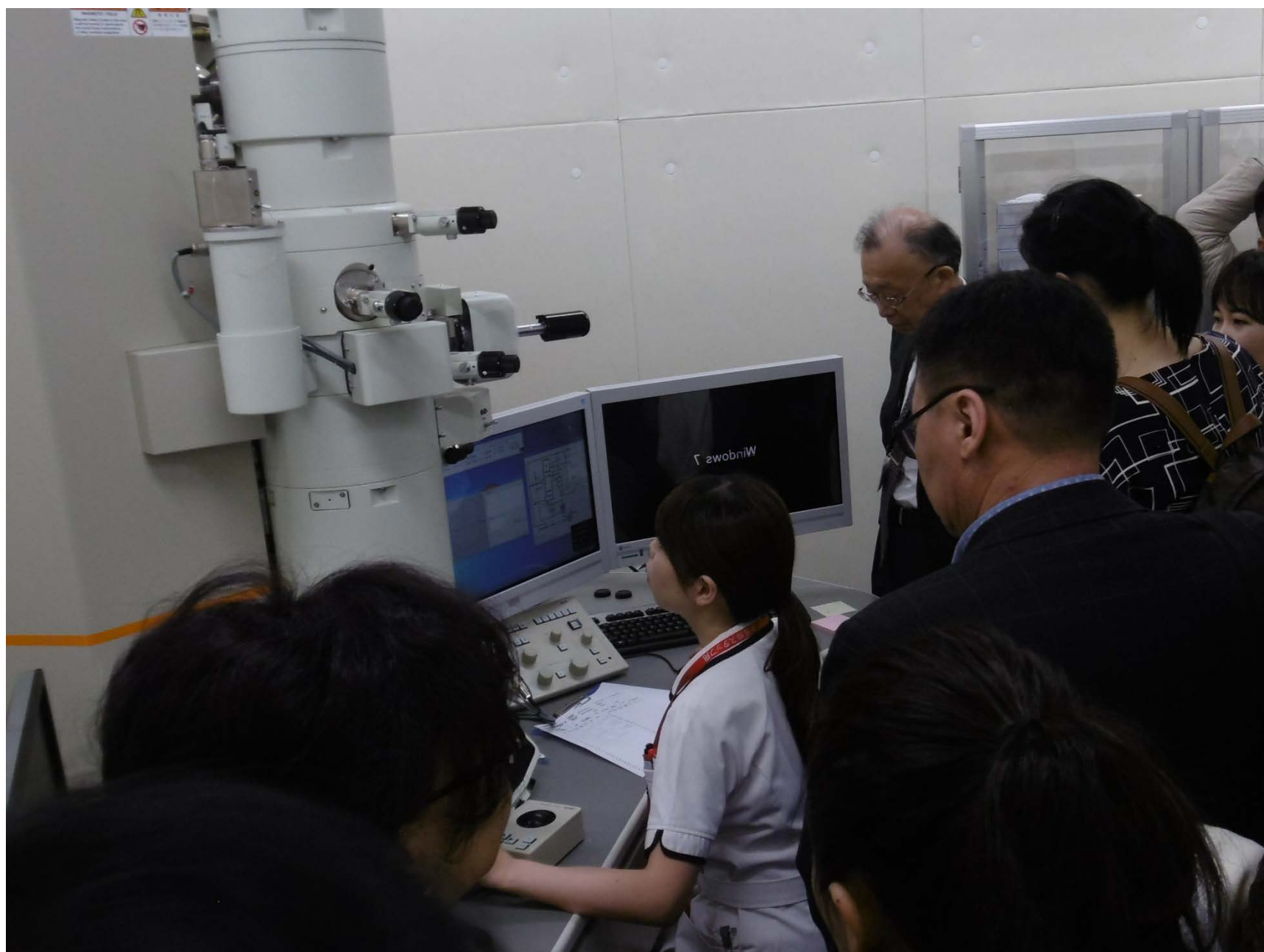
- 受講対象者

JICAプロジェクトにより招聘されたモンゴル国の放射線医及び技師

画像診断研修の様子



電子顕微鏡での技術研修の様子



山陽新聞に研修について取材を受けた記事が掲載されました。



石綿疾患診断学ぶ

労災病院 モンゴル医師ら研修

アスベスト(石綿)による疾患の早期発見につなげようと、モンゴルの医師ら18人が25日、岡山労災病院のアスベスト疾患研究・研修センター(岡山市南区築港緑町)で診断技術を学んだ。

同病院と川崎医科大学総合医療センター(同市北区中山下)の医師が、エックス線やコンピュータ断層撮影(CT)の画像で注意を払うべき所見や疑われる呼吸器疾患について解説。研修を受ける医師らは実際の画像分析や質疑応答を通じて知識を深めた。

モンゴルでは配管などに石綿が広く使われているといい、デルゲルマーさん(29)は「関連疾患の先進的な診断技術や診療のノウハウを日本で習得したい」と話した。



同国の医師らはまややく、羊の毛で作られた、西日本豪雨の被災れた靴下100足を、研修に同席した国際医療ボラ

ンティアAMD A(本部・同伊福町)の関係者に寄託した。(小若菜美) CTなどによる画像診断の技術を学ぶモンゴルの医師ら

モンゴルの断熱材（アスベストは含まれていませんでした。）

